

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
共通	1	画面表示	表示方法	年月日	画面表示される年月日は、和暦表示とする。	必須	ゲスト	
	2		表示制御	表示制御	画面内表示の拡大縮小ができること。拡大縮小に伴い、文字サイズが変更、又は文字の大きさを選択できること。	必須	ゲスト	全ての画面で実現すること。ただしブラウザの制限によるものは除く。
	3				入力可能文字数内で直接入力した文字等は、画面上で全て表示できること。	必須	ゲスト	
	4				スクロールバー等により表示領域を移動する場合は、マウスホイールでもできること。	必須	ゲスト	
	5				メニュー画面及び積算画面において、ウィンドウサイズを任意に拡大縮小できること。	必須	ゲスト	
	6				各機能を実行した際に、必要性のある場合を除き、新規にウィンドウを表示させないこと。	必須	ゲスト	
	7				作業状況をウィンドウ等で表示させる場合は、自動更新するようにし、利用者に更新作業をさせないようにすること。	必須	ゲスト	
	8	一時保存	一時保存	一時保存	表示されるテキストデータについては、クリップボード等に一時保存でき、利用者のパソコンの起動しているアプリケーションソフトに対してデータを貼り付けることができること。	必須	ゲスト	
	9				積算システムログイン後、一定時間操作をしなかった場合は、予め設定された時間で自動的にログアウト又は切断を行えること。	必須	ゲスト	
	10				タイムアウト警告表示	必須	ゲスト	
	11				データ保持	必須	ゲスト	
	12	画面入力	画面入力	文字等入力	左からの横書き入力とする。 漢字は全角で使用できること。 仮名、英数字、記号は全角半角で使用できること。	必須	ゲスト	
	13			自動半角設定	漢字、仮名を使用できない入力欄は自動的に半角設定にすること。	必須	ゲスト	
	14			画面情報の保存、貼付	クリップボード上に保存したテキストデータを入力欄に貼り付けできること。	必須	ゲスト	
	15			実行、取り消し等	各画面には、ボタン(アイコン)を配置し、その画面で入力した情報を確定し次の画面に遷移するための実行ができること。 またその画面で入力した情報を取り消し、前の画面に戻ることができること。	必須	ゲスト	
	16			マウス操作	マウスのクリック又はダブルクリックで、実行確定や計上した各種コードの修正画面への遷移等ができること。	必須	ゲスト	
積算	17	ログイン	画面構成	構成	団体コード、所属コード、利用者コード、パスワードの入力欄、システム管理者が設定したメッセージを閲覧できること。	必須	ゲスト	画面構成イメージは別紙3-1を参照
	18		ログイン	ログイン	団体コード、所属コードは直接入力又は一覧から選択し、利用者コード、パスワードは利用者が直接入力できること。	必須	ゲスト	
	19				同一の利用者コードによる同時ログインはできないようにすること。	必須	ゲスト	
	20				「特記仕様書」5.1.2.利用者数に基づく同時接続数150に達した場合は、ログイン時にその旨の警告表示がされること。	必須	ゲスト	
	21			パスワード変更	設定された有効期限内で自動的にパスワード変更画面に遷移すること。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	22	ログイン	ログイン	パスワード変更	利用者が任意のタイミングでパスワードを変更できること。	必須	ゲスト	
	23	メニュー	画面構成	画面構成	ログイン後の各機能を使用するためのポータルサイトであり、各機能に移行するボタン等をシンプルかつ見やすく配置し、画面遷移も極力少なくすること。	必須	ゲスト	画面構成イメージは別紙3-1を参照
	24		設計書作成	設計書区分選択	資料8「設計書区分一覧表」に基づき、一覧から選択できること。	必須	ゲスト	
	25				資料8「設計書区分一覧表」スライド設計書について、建設工事請負契約書の条項第25条第5項(単品スライド条項)に対応できること。	任意	ゲスト	
	26				設計書番号設定 設計書番号は、以下の項目をあわせた16桁で構成され、利用者による付番又は項番24により一覧から選択した後に項番29に遷移できること。 1. 和暦年度:2桁 2. 所属コード:2桁 3. 利用者コード:4桁 4. 設計書区分コード:1桁 5. 通し番号:3桁 6. 変更回数:2桁 7. 諸経費区分コード:2桁 和暦年度については、日付情報から自動付番できること。 所属コード及び利用者コードはログイン情報から自動付番し、変更できないようにすること。 設計書区分コード、諸経費区分コードは、直接入力及び一覧から選択できること。 通し番号、変更回数は、直接入力する。 設定情報が設計書データとしてサーバに保存されるのは、項番150の実行時とする。	必須	ゲスト	
	27				項番26に加え、同じ所属内の利用者コードを直接入力できること。	必須	所属管理者	
	28				項番26に加え、同じ団体内の所属コード、利用者コードを直接入力できること。	必須	団体管理者	
	29			作成区分	新規作成、修正及び変更が実行できること。 新規作成時には、既存の設計書データを流用できること。 新規作成し保存実行した後は、修正のみが実行可能であること。 変更については、項番37設定後に変更回数を入力することで実行できること。	必須	ゲスト	
	30			適用年版選択(設計書全体)	適用年版(改訂作業により作成した年版)を一覧から選択できること。	必須	ゲスト	
	31				設計書全体にかかる適用年版と各種コード単位で選択した年版が異なる場合は、利用者の任意選択により、設計書全体にかかる適用年版に一括修正できること。	必須	ゲスト	
	32		設計書管理	一覧表示	設計書の一覧が和暦年度別に表示できること。 一覧には、最低限以下の項目を表示できること。 1. 設計書番号 2. 変更回数 3. 設計書名 4. 現在の処理状況 5. 最終処理日時 6. 保護設定の有無	必須	ゲスト	
	33				設計書データは、設計書番号順に上から表示されるとともに、年度毎に画面を切り替えて表示できること。	必須	ゲスト	
	34			削除	項番32の一覧表から、削除対象設計書データを単数及び複数選択し、削除できること。 削除対象は自ID分のみとする。	必須	ゲスト	
	35				項番34について、同じ所属内での利用者を対象として削除できること。	必須	所属管理者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	36	メニュー	設計書管理	削除	項番34について、同じ団体内での利用者を対象として削除できること。	必須	団体管理者	
	37			保護設定	項番32の一覧表から、作成した設計書データを単数及び複数選択し、保護設定または保護解除できること。 保護設定された設計書データは、項番29及び項番34による修正や削除をできなくすること。 保護対象は自ID分の設計書データのみとする。	必須	ゲスト	
	38				項番37について、同じ所属内での利用者を対象として保護または保護解除できること。	必須	所属管理者	
	39				項番37について、同じ団体内での利用者を対象として保護または保護解除できること。	必須	団体管理者	
	40			利用制限	同じ所属内の利用者が作成した設計書を対象として、設計書の閲覧、修正、削除、帳票印刷等の一切の処理が行えないよう、制限の設定または設定解除ができること。	必須	所属管理者	
	41				同じ所属内の利用者が作成した設計書を対象として、設計書の閲覧、修正、削除、帳票印刷等の一切の処理が行えないよう、制限の設定または設定解除ができること。	必須	団体管理者	
	42			複写	項番32の一覧表から作成した設計書データを単数選択し、複写先の設計書番号を付番して複写元設計書データ全てを複写できること。 複写は、同一の諸経費区分のみとするが、設計書区分は問わないこと。ただし、出来高設計及びスライド設計はこの限りではない。 なお、複写対象は自ID分のみとする。	必須	ゲスト	
	43				項番42について、同じ所属内での利用者を対象として複写ができること。	必須	所属管理者	
	44				項番42について、同じ団体内での利用者を対象として複写ができること。	必須	団体管理者	
	45				他の団体、他の所属の利用者に対して設計書データを複写できること。 ただし、複写方法については、IDやパスワードの設定等を行う等、発注者と協議を行い決定すること。	必須	一般利用者	
	46			設計書共有	他団体、団体内、所属内に対して設計書データの共有設定ができること。 共有対象となった利用者に対して設計書データの閲覧、複写ができること。	任意	一般利用者	
	47			外部保存・復元	作成した設計書データを業務用端末に保存できること。 保存した設計書データは、設計書番号を直接入力し積算システムに復元できること。 外部保存・復元対象は自ID分のみとする。 なお、平成28年4月からの試行運用開始後は、本機能を使用出来ないようにすること。	必須	一般利用者	
	48				項番47について、同じ所属内での利用者を対象として外部保存・復元ができること。 なお、平成28年4月からの試行運用開始後は、本機能を使用出来ないようにすること。	必須	所属管理者	
	49				項番47について、同じ団体内での利用者を対象として外部保存・復元ができること。	必須	団体管理者	
	50		ヘルプ	マニュアル参照	操作手引き書及び利用マニュアル(利用者向け)が画面上で参照できること。	必須	ゲスト	
	51				利用マニュアル(管理者向け)が画面上で参照できること。	任意	団体管理者	
	52			ヘルプ	ヘルプ機能を使用できること。	任意	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	53	メニュー	要望・意見	入力	要望・意見の入力ができること。 入力した情報はサーバ上に保存されること。 入力の際は、一覧より要望・意見の種別を選択させ、入力フォームに入力させること。	必須	ゲスト	
	54	積算	画面構成	全体構成	設計書を作成するためのメインのサイトであり、機能ボタン群、工種ツリー、内訳で区分され、それぞれの表示範囲を調整できること。 なお、シンプルかつ見やすく配置し、画面遷移も極力少なくすること。	必須	ゲスト	画面構成イメージは別紙3-1を参照
	55			機能ボタン群	機能ボタン群とは機能のボタン(アイコン)が配置されている範囲を指す。 機能のボタン(アイコン)は、見た目で判断しやすく作成するとともに、機能的に配置すること。	必須	ゲスト	画面構成イメージは別紙3-1を参照
	56			工種ツリー	工種ツリーを入力・表示する範囲で、計上した工種ツリーの表示ができること。	必須	ゲスト	画面構成イメージは別紙3-1を参照
	57			内訳	内訳画面は、工種ツリーに入力された各種コードを表示する(工種ツリーが表示されてもよい)画面で、通し番号、コード番号、コード名称、数量、単位、単価、金額、管理費区分が最低限表示できること。	必須	ゲスト	
	58				項番57について、項番29に基づく変更、資料8に基づく出来高設計、スライド設計において、上下段等で新旧の情報を対比表示できること。	必須	ゲスト	
	59		鏡	情報入力	様式K10-1「鏡」に基づく情報が直接入力できること。 なお、入力した情報はサーバ上に保存されること。	必須	ゲスト	
	60		総括情報	設計書名	全角80文字以上で設計書名を直接入力できること。 なお、入力した情報はサーバ上に保存されること。	必須	ゲスト	
	61			単価地区	資材単価地区について一覧から選択できること。	必須	ゲスト	
	62			諸経費区分	資料3「諸経費区分一覧表」に基づき一覧から選択もしくは直接入力できること。 なお、委託業務については、測量、設計、地質・土質調査、用地調査、工損調査等が1つの設計書内で複数選択し作成できること。	必須	ゲスト	
	63			諸経费率	各種諸経费率について、直接入力した値で本工事費(業務費)まで算出できること。	必須	ゲスト	
	64			消費税率	初期値設定され表示されていること。 なお、消費税率を直接入力できること。	必須	ゲスト	
	65		工種ツリー	選択計上	資料9「工種体系表」に基づき工種ツリーを選択計上できること。 計上方法については、発注者と協議のうえ決定する。	必須	ゲスト	
	66				工種体系は、工種レベル3までを必須計上とすること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	
	67			任意計上	工種レベル4は任意に計上できること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	
	68			任意作成	資料9「工種体系表」以外の工種レベル1、工種レベル2、工種レベル3、工種レベル4の工種体系についても任意に作成し計上できること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	
	69			名称変更	工種体系の名称は直接入力により変更できること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	70	積算	工種ツリー	適用年版設定	工種レベル3の工種ツリーに対し、適用年版を一覧から選択し設定できること。 設定することで、配下に計上された各種コードの適用年版が変更されること。 なお、設計書全体にかかる適用年版と異なる場合は、本項番で設定した適用年版を優先する。	任意	ゲスト	
	71			数量・単位入力	工種ツリーの初期値として、数量は1、単位は式とすること。 ただし、単位は一覧から選択できること。	必須	ゲスト	
	72			単価置き換え	諸経費区分「森林・林業」の工種レベル3の工種ツリーに対し、配下に計上された普通作業員の労務単価コードを山林砂防工の労務単価コードに一括で置き換える設定ができること。	必須	ゲスト	
	73			管理費区分設定	工種ツリーに、管理費区分を一覧から選択し設定できること。 設定することで、配下に計上された各種コードに対して、管理費区分が適用されること。 なお、工種ツリーに初期設定で管理費区分が設定されている場合においても設定可能とし、その場合には本項番で設定した方が優先されること。	必須	ゲスト	
	74			労務費割り増し設定	工種ツリーに、一覧から労務割り増しの選択又は割り増し率の直接入力により労務費の割り増しを設定できること。 設定することで、配下に計上された労務単価コードに対して、単価値の割増がされること。	必須	ゲスト	
	75			摘要欄入力・表示	摘要欄に直接入力でき、画面上や帳票に出力できること。	必須	ゲスト	
	76		各種コード計上	歩掛コード、単価コード計上	工種レベル3、工種レベル4の工種ツリーの配下に各種コードを計上できること。 計上方法は、搭載した全ての積算基準書のページ構成に基づき階層検索ができるとともに、連続して計上できること。 階層検索は、積算画面内又は別画面で表示させること。 別画面とする場合は、内訳画面と同時に表示させ計上できること。	必須	ゲスト	各種コードとは、歩掛コード、代価コード、単価コード、特殊コードを指す。
	77				内訳の画面上にコード番号を直接入力することにより歩掛コード及び単価コードを計上できること。	必須	ゲスト	表計算ソフトを使用するイメージである。
	78				予め工種ツリーの配下に関連づけられた歩掛コードを単数もしくは複数選択し工種ツリーとともに計上できること。	必須	ゲスト	
	79			数量計上	各種コードに、数量を直接入力できること。	必須	ゲスト	
	80			条件選択	歩掛コードについては、項番242で設定された条件を選択できること。	必須	ゲスト	
	81			名称変更	コード名称を直接入力した名称に変更できること。 変更は当該設計書内でのみ有効とする。	必須	ゲスト	
	82			非表示設定	各種コードの直接入力欄には、予め定められた記号で文字を囲むことで、金抜き帳票で非表示できること。	必須	ゲスト	
	83			適用年版設定	各種コードに適用年版を設定できること。 なお、設計書全体に設定した適用年版及び工種ツリーに設定した適用年版と異なる場合は、本項番で設定した適用年版を優先する。	必須	ゲスト	
	84				第1回以降の設計変更時においては、最新の適用年版も選択できること。	必須	ゲスト	
	85			規格欄変更	規格欄の値を直接入力し変更できること。 変更は当該設計書内でのみ有効とする。 規格欄の変更対象コードは、歩掛コードとする。	必須	ゲスト	(例)変更用の欄を別途 設け直接入力した値に 置き換える。
	86			摘要欄入力・表示	各種コードの摘要欄に直接入力でき、画面上や印刷帳票に出力できること。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	87	積算	各種コード計上	端数調整設定	各種コードに、端数調整の設定が可能であること。 端数調整は、 1. 小数点以上以下桁数、有効桁数 2. 四捨五入、切り上げ、切り捨て の各種を組み合わせ設定可能であること。	必須	ゲスト	
	88			諸雑費、集計処理対象設定	各種コードに、同じ工種ツリーもしくは同じ代価コード内に計上した特殊コード(諸雑費や集計処理用のコード)の計算処理対象に設定できること。 対象に設定できる種類は最低限3種類以上とする。	必須	ゲスト	(設定方法例) 特殊単価コードに番号を入力する。 計上する歩掛コードや単価コードに特殊単価コードに入力した番号を入力することで、特殊単価コードの計算処理の対象とする。
	89			管理費区分設定	各種コードに、管理費区分を一覧から選択し設定できること。 設定することで、設定したコード及び配下に計上された各種コードに対して、管理費区分が適用されること。 なお、工種ツリー及び各種コードに初期設定で管理費区分が設定されている場合においても設定可能とし、その場合には本項番で設定した方が優先されること。	必須	ゲスト	
	90			労務費割り増し設定	各種コードに、一覧から労務割り増しの選択及び割り増し率の直接入力により労務費の割り増しを設定できること。 設定することで、配下に計上された労務単価コードに対して、単価値の割増がされること。 なお、工種ツリー及び各種コードに初期設定で労務費割り増しが設定されている場合においても設定可能とし、その場合には本項番で設定した方が優先されること。	必須	ゲスト	
	91				設計単価表1(2)「夜間及び時間外にわたる工事の設計労務単価について」に基づき、交替数や、労働時間を詳細に設定し、労務費の自動割り増しができること。	任意	ゲスト	
	92			出力設定	各種コードに、金抜き帳票への数量の出力の有無を設定できること。 なお、各種コードに初期設定されている場合は、本項番で設定した方が優先されること。	必須	ゲスト	
	93			試算・プレビュー	試算でき、試算結果を帳票形式でプレビュー表示できること。	必須	ゲスト	
	94				項番93について、内訳が配下に存在するコードを試算した場合は、配下の内訳についてもプレビュー表示できること。	任意	ゲスト	
	95			代価複写	歩掛コードは代価コードとして複写できること。 複写することで、条件選択した結果の名称・規格及び計上される各種コード、摘要欄への入力内容が反映されること。	必須	ゲスト	
	96				市場単価等の単価値に補正がかかるものについても、補正がかかった状態で代価コードとして複写できること。 ただし、補正状態を確認できるよう規格値の表示又は補正状態を確認出来る画面を付加すること。 なお、複写時には、摘要欄に入力された情報も複写できること。	必須	ゲスト	
	97			単価値置換	歩掛コードで条件等で単価値を直接入力した場合は当該設計書内でのみ、単価値を置き換えられること。	必須	ゲスト	
	98			仮入力設定	計上したコードを仮入力扱いとする。	任意	一般利用者	(例)チェックをつけることで、積算時にエラーで返される。
	99			外部ファイル取り込み	各種コードを外部ファイルから一括して取り込むこと。	任意	一般利用者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	100	積算	数量計上	数量計上	内訳の画面上に直接入力することにより数量を計上できること。	必須	ゲスト	
	101		代価登録	コード登録	代価コードの新規追加・修正・削除ができること。 作成された代価コードは当該設計書内に保存されること。 最低限以下に示す項目を直接入力もしくは一覧から選択し設定できること。 1. 代価コード番号 2. 名称 3. 規格 4. 単位 5. 単位数量(割返し数量) 6. 端数調整 7. 適用年版	必須	ゲスト	代価とは、積算基準書における機労材等の構成と金額を指す。
	102			複数削除	追加した代価コードは複数指定し一括して削除できること。	必須	ゲスト	
	103			単位設定	単位を全角3文字以内で直接入力できること。	必須	ゲスト	
	104			各種コード計上	代価表内には、各種コードを計上できること。	必須	ゲスト	各種コードとは、歩掛コード、代価コード、単価コード、特殊コードを指す。
	105			流用登録	当該設計書もしくは他の設計書の代価コードから流用できること。 流用対象は自ID分のみとする。 なお、複写時には、摘要欄に入力された情報も複写できること。	必須	ゲスト	流用とは、登録されたデータ全てを自動的に複写することを指す。
	106				項番105について、同じ所属内での利用者を対象として流用できること。	必須	所属管理者	
	107				項番105について、同じ団体内での利用者を対象として流用できること。	必須	団体管理者	
	108				複数を指定して流用できること。	任意	ゲスト	
	109			出力設定	金抜き帳票への数量の出力の有無を設定できること。	必須	ゲスト	
	110			試算・プレビュー	試算でき、計算結果を帳票形式でプレビュー表示できること。	必須	ゲスト	
	111			共有設定	他団体・団体内・所属内に対して、登録した代価データの共有設定ができること。 共有対象となった利用者からは、代価登録の流用機能により流用できること。	任意	一般利用者	
	112		単価登録	単価登録	単価コードの新規追加・修正・削除ができること。 作成された単価コードは当該設計書内に保存されること。 最低限以下に示す項目を直接入力又は一覧から選択し設定できること。 1. 単価コード番号 2. 名称 3. 規格 4. 単位 5. 単価 6. 資源区分 7. リサイクル認定製品使用区分 8. 金抜き出力区分(数量)	必須	ゲスト	
	113			複数削除	追加した単価コードは複数選択し削除ができること。	必須	ゲスト	一覧管理する場合に実現すること。
	114			単位設定	単位を全角3文字以内、半角6文字以内で直接入力できること。	必須	ゲスト	
	115			流用登録	他の設計書で作成した単価コードから流用できること。 流用対象は自ID分のみとする。	必須	ゲスト	流用とは、登録されたデータ全てを自動的に複写することを指す。
	116				項番115について、同じ所属内での利用者を対象として流用できること。	必須	所属管理者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	117	積算	単価登録	流用登録	項番115について、同じ団体内での利用者を対象として流用できること。	必須	団体管理者	
	118				単価コードから複写し流用できること。	任意	ゲスト	
	119			出力設定	金抜き帳票への数量の出力の有無を設定できること。	必須	ゲスト	
	120				金抜き帳票への単位の出力の有無を設定できること。	必須	ゲスト	
	121			共有設定	他団体、団体内、所属内に対して登録した単価データの共有設定ができること。 共有対象となった利用者からは、項番115の機能により流用できること。	任意	一般利用者	
	122			外部ファイル取り込み	外部ファイルから一括して登録できること。	任意	一般利用者	
	123		共通機能	元に戻す	直前の削除前の状態に戻せること。	必須	ゲスト	
	124				定められた回数分の操作を保存しておき、各操作前の状態に戻せること。	任意	ゲスト	この機能が実現した場合は項番123は実現しなくてもよい。
	125			やり直し	元に戻すの実施前に戻せること。	必須	ゲスト	
	126				定められた回数分の操作を保存しておき、各操作後の状態に戻せること。	任意	ゲスト	この機能が実現した場合は項番125は実現しなくてもよい。
	127			検索	種類別に歩掛コード、単価コード、特殊コードを検索し対象行に挿入して計上できること。 検索時には、どの積算基準書に属するか、コード番号、コード名称、コード規格、単位が分かるように表現できること。 最低限以下に示す種類分けから検索できること。 1. 歩掛コード 2. 労務単価コード 3. 資材単価コード 4. 機械損料コード 5. 特殊コード 6. 全て	必須	ゲスト	
	128				直接入力したキーワードから、完全一致及び部分一致により検索できること。 検索対象は、コード番号、名称、規格とする。 この検索機能は項番127と組み合わせて使用できること。	必須	ゲスト	
	129				直接入力した複数のキーワードをand、orで検索ができること。 この検索機能は項番127と組み合わせて使用できること。	任意	ゲスト	
	130				あいまい検索ができること。 この検索機能は項番127と組み合わせて使用できること。	任意	ゲスト	
	131				項番127により検索し、コードを計上した後も検索画面が閉じず、次の検索ができること。	必須	ゲスト	
	132			行複写	単数もしくは複数の行を指定し、計上した各種コード、入力した情報全てを複写できること。	必須	ゲスト	
	133				項番132について、内訳画面と代価画面間において複写ができること。	任意	ゲスト	
	134			工種ツリー複写	複写元と複写先の工種レベルを指定して複写し貼り付けできること。 複写及び貼り付け対象は、当該設計書もしくは自IDで作成した設計書とし、計上された各種コードの情報全てが複写・貼り付けされること。 複写先工種レベルは複写元工種レベルと合わさなければ複写できないようにすること。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	135	積算	共通機能	工種ツリー複写	複写の際、コード番号の重複確認を自動で行い、重複した場合は、複写元のコード番号を一字変更する等の方法で、自動付番されること。	必須	ゲスト	
	136				複写元と複写先の適用年版が異なる場合は、複写先の適用年版に変更する。 ただし、複写先の適用年版に複写対象の工種ツリー及び各種コードが存在しない場合の対応については協議により決定する。	必須	ゲスト	
	137				項番134、135、136について、同じ所属内での利用者を対象として複写できること。	必須	所属管理者	
	138				項番134、135、136について、同じ団体内での利用者を対象として複写できること。	必須	団体管理者	
	139			切り取り	単数もしくは複数の行を指定し、計上した工種ツリー、各種コードを複写した上で削除できること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	内訳での使用を想定しているが、その他の画面においても摘要できる場合は実現すること。
	140			貼り付け	最新の行複写及び切り取りにより複写された工種ツリー、各種コード、入力した情報全てを貼り付けできること。 貼り付けは、対象行に挿入するようにすること。	必須	ゲスト	内訳での使用を想定しているが、その他の画面においても摘要できる場合は実現すること。
	141			追加	各種コードを入力するための空白行を挿入できること。 空白行は、画面遷移等により自動的に削除されること。	任意	ゲスト	内訳での使用を想定しているが、その他の画面においても摘要できる場合は実現すること。
	142			削除	計上された工種ツリーを削除できること。 削除した場合は、配下に計上された各種コードも削除されること。 ただし、固定工種ツリーはこの限りではない。	必須	ゲスト	
	143				計上された各種コードを単数及び複数指定して削除できること。	必須	ゲスト	
	144			修正	修正対象行を指定し、修正ボタン等により、計上されたコードの内容修正に移行できること。	必須	ゲスト	
	145			表示順変更	計上した工種ツリーや各種コードの表示順を任意に変更できること。	必須	ゲスト	
	146			マウス操作	修正対象行をクリック又はダブルクリックにより、計上されたコードの内容修正に移行できること。	必須	ゲスト	
	147				内訳画面において、操作対象行毎に、項番123から145にかかる機能が使用できるボタン又はアイコンを搭載すること。	必須	ゲスト	
	148				項番147について、マウスの右クリック(左きき設定の場合は左クリック)により、使用できること。	任意	ゲスト	この機能が実現可能な場合は、項番147は実現しなくともよい。
	149			ショートカットキー操作	ショートカットキー(ctrlとの組み合わせ)により、元に戻す、やり直し、検索、複写、切り取り、貼り付け、追加、挿入、削除、修正等が使用できること。	任意	ゲスト	
	150			保存	サーバに設計書データを保存できること。	必須	ゲスト	
	151			計算	資料3「諸経費区分一覧表」に基づき、本工事費(業務費)まで算出できること。	必須	ゲスト	
	152			逐次計算	計上したコードについては逐次計算されること。 計算は直接工事費(業務費)までとする。	必須	ゲスト	
	153			帳票	帳票出力機能に移行できること。	必須	ゲスト	
	154			終了	積算を終了しメニュー画面に遷移できること。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	155	積算	合併	その1	当該設計書内で工事内容を分割し、それぞれの工事費を、分割せずに算出した諸経費率を基にして算出できること。最低分割数は9とする。 なお、分割したそれぞれの工事費を合計した金額と、合併せずに計算した工事費は同値となるようにすること。	必須	ゲスト	
	156				項番155は、工事単位でタブ等で分割し、それぞれ直接工事費、共通仮設費積み上げ分が入力できること。 なお、工種ツリー等への合併設定は不可とする。 合併可能な条件は以下のとおりとする。 1. 工種区分は1種類(代表的な工種) 2. 工事のみ(ただし、機械設備や電気通信設備等諸経費体系が異なる場合は対象外とする) 項番155について、委託業務についても合併できること。	必須	ゲスト	
	157				項番155について、異なる諸経費体系についても合併できること。	任意	ゲスト	
	158				項番155について、異なる諸経費体系についても合併できること。	任意	ゲスト	
	159				それぞれのタブに対して、最低限全角20文字までの名称を直接入力し、帳票へ表示できること。	必須	ゲスト	
	160				同じ諸経費区分の設計書データを当該設計書に流用できること。 なお、取り込み対象は自ID分のみとする。	必須	ゲスト	流用とは、登録されたデータ全てを自動的に複写することを指す。
	161				項番160について、同じ所属内での利用者を対象として流用できること。	必須	所属管理者	
	162				項番160について、同じ団体内での利用者を対象として流用できること。	必須	団体管理者	
	163				タブ毎に算出される工事費に対して、工事価格(減額のみ、千円止めを指定する)を直接入力し、一般管理費等の金額内で一般管理費等を減額できること。	必須	ゲスト	
	164			その2	利用者が指定した複数の設計書を対象に、諸経費を合併計算できること。 合併計算された対象の設計書は合併計算された状態で保存されること。 なお、本機能により算出され全体の工事費と、項番155の合併その1により算出した全体の工事費は同値となるようにすること。	必須	一般利用者	合併その1において分割数が15以上、及び精算設計書の印刷帳票全てを、合併する工事単位で分割して出力することができる場合は、項番164から166の合併機能その2は実現しなくともよい。
	165				合併対象の設計書に対して、工事価格(減額のみ、千円止めを指定する)を直接入力し、一般管理費等の金額内で一般管理費等を減額できること。	必須	一般利用者	
	166				項番155の合併その1を使用して作成した設計書との合併ができること。 なお、本機能により算出された全体の工事費と、項番155の合併その1のみを使用して算出した全体の工事費は同値となるようにすること。	必須	一般利用者	
	167				設計書に対して、目標工事、業務価格(減額のみ、千円止めを指定する)を直接入力し、一般管理費等の範囲内で経費を調整できること。 なお、経費調整可能な条件は以下のとおりとする。 1. 一般管理費がある工事、委託 2. 積算処理が正常に行われた状態の設計書 3. 保護設定していない設計書	必須	一般利用者	
	168		経費調整	その2	直接入力した経費情報(工種区分、直接工事費、間接工事費及び諸経費対象外金額等)に基づき、当該設計書に対して経費調整し工事費を算出できること。 経費調整可能な条件は以下のとおりとする。 1. 工事のみ(ただし、機械設備や電気通信設備等は除く)	必須	一般利用者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	169	積算	経費調整	その3	積算基準(共通編)第4章「随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について」①-1-(2)までの同種工事に対する経費調整ができること。 他の設計書の選択件数は5以上とする。	必須	一般利用者	
	170				積算基準(共通編)第4章「随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について」①-1-(3)以降に基づいた経費調整ができること。	任意	一般利用者	
	171			その4	設計書を指定し、その設計書の諸経費率を使用し他の設計書の経費調整ができること。 他の設計書の選択件数は5以上とする。 なお、経費調整可能な条件は以下のとおりとする。 1. 工事のみ(ただし、機械設備や電気通信設備等は除く)	必須	一般利用者	
	172		違算防止	ルール外操作警告	予め定められたルールを外れる操作等を行った場合はその都度警告表示しその動作を確定させないようにすること。	必須	ゲスト	(例)条件未選択、数量未入力等
	173			条件組み合わせ警告	歩掛コードの条件選択時に、組み合わせ間違いが発生しないよう選択肢を絞り込み表示するとともに、組み合わせ間違いがあった場合は、その都度警告表示しその動作を確定させないようにすること。 警告表示には、重要度を設定すること。	必須	ゲスト	
	174			エラー表示、対象着色	計算を行い、内容に問題があった場合、エラーリスト等を表示するとともに、エラー対象コードの背景色もしくは文字を着色、強調して表示させること。 リスト等は、重要度に応じた判別ができること。	必須	ゲスト	
	175				計算を行い、内容に問題があった場合は、エラーリスト等を表示するとともに、対象コードに遷移できること。	必須	ゲスト	
	176			年版適用警告	項番30で選択した適用年版に対して、各種コードで異なる適用年版を設定している場合、エラーリスト等で警告表示できること。	必須	ゲスト	
	177			0円単価コード計上チェック	単価値が0円で計上されている場合、計算後に、エラーリスト等で警告表示できること。	必須	ゲスト	
	178			一般管理費補正チェック	契約保証補正にかかる選択について、設計金額を基に選択の適否を判定できること。	必須	ゲスト	
	179			経費入力漏れチェック	特定の経費について、計算により金額が0であった場合警告表示されること。 警告表示させる経費は発注者との協議のうえ決定する。	必須	ゲスト	(例)積算基準(機械編)の据付間接費等
	180			管理費区分二重計上チェック	管理費区分等計算制御が初期設定されている工種ツリーに対して、管理費区分を設定した場合警告表示されること。	必須	ゲスト	
	181			支給品計上チェック	資源区分等で支給品を選択した場合は、管理費区分との組み合わせに間違いあった場合に警告表示されること。	必須	ゲスト	
	182		業務効率化	標準工期算定	標準工期を自動算定できること。 ただし、積算基準書に標準工期の算定方法が記載されており、システムで対応可能な諸経費区分のみとする。	必須	ゲスト	
	183				カレンダーを用いて、工期の開始日もしくは終了日を指定することにより、標準工期を基に自動的に、終了日、開始日が表示されること。	任意	ゲスト	
	184			経費情報自動選択	使用する工種ツリーや設計金額を基に経費情報を自動選択できること。 ただし、選択された経費情報は修正できること。	任意	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
積算	185	積算	業務効率化	請負金額算出	請負金額を入力でき、変更時には変更請負金額を自動算出できること。 なお、合併を行った場合は、合併後の請負金額からそれぞれの工事に按分されること。	任意	一般利用者	
	186		ヘルプ	マニュアル参照	操作手引き書及び利用マニュアル(利用者向け)が画面上で参照できること。	必須	ゲスト	
	187				利用マニュアル(管理者向け)が画面上で参照できること。	任意	団体管理者	
	188			ヘルプ	ヘルプ機能を使用できること。	任意	ゲスト	
帳票出力	189	画面構成	画面構成	画面構成	一つの画面内で、帳票出力に必要な機能が使用できること。	必須	ゲスト	
	190	帳票出力	プレビュー	プレビュー	単数及び複数の帳票をチェックボックス等により指定し、プレビュー表示できること。	必須	ゲスト	
	191		帳票印刷	印刷	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく帳票が印刷できること。	必須	ゲスト	
	192				様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、帳票出力する区分を選択できること。	必須	ゲスト	
	193			印刷帳票選択	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、印刷する帳票をチェックボックス等により選択できること。	必須	ゲスト	
	194			部数設定	印刷部数を直接入力等で設定できること。	必須	ゲスト	
	195			プリンター選択	利用者の業務用端末で使用可能なプリンターで印刷できること。	必須	ゲスト	
	196			プリンター機能印刷	プリンター機能で、両面、集約、モノクロカラー選択は最低限利用できること。	必須	ゲスト	
	197			ページ指定印刷	印刷するページを任意に設定できること。	必須	ゲスト	
	198			ページ表示設定	ページ番号の表示、非表示ができること。	必須	ゲスト	
	199			帳票指定一括印刷	事前に印刷する帳票を設定した印刷ボタンを設けておき一括して印刷できること。 なお、利用団体毎での設定ができること。	必須	ゲスト	
	200		PDFファイル変換	変換	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、PDFファイル変換できること。	必須	ゲスト	
	201			帳票選択	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、PDFファイル変換する帳票を任意に選択できること。	必須	ゲスト	
	202			保存	指定した帳票をPDFファイルに変換し、利用者の業務用端末に保存できること。	必須	ゲスト	
	203			帳票指定一括印刷	事前に変換する帳票を設定したボタン(アイコン)を設けておき一括して変換できること。 なお、利用団体毎での設定ができること。	必須	ゲスト	
	204		エクセルファイル変換	変換	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、エクセルファイル変換できること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	ゲスト	
	205			帳票選択	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づき、エクセルファイル変換する帳票を任意に選択できること。	必須	ゲスト	
	206			保存	指定した帳票をエクセルファイルに変換し、利用者の業務用端末に保存できること。	必須	ゲスト	
	207			帳票指定一括印刷	事前に変換する帳票を設定したボタン(アイコン)を設けておき一括して変換できること。 なお、利用団体毎での設定ができること。	必須	ゲスト	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
帳票出力	208	帳票出力	数量総括表出力	数量総括表出力	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「数量総括表」のファイル出力ができること。 ファイルには積算システムで入力した内容を反映させること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
	209		単価算出調書出力	単価算出調書出力	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「単価算出調書」のファイル出力ができること。 ファイルには積算システムで入力した内容を反映させること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
	210		施工日数算出表出力	施工日数算出表出力	項番249で設定した、日当たり作業量データと設計書データの入力情報を元に、様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「施工日数算出表」のファイル出力ができること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
	211		工事費積算参考資料出力	工事費積算参考資料出力	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「工事費積算参考資料」のファイル出力ができること。 ファイルには積算システムで入力した内容を反映させること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
	212		検算参考資料出力	検算参考資料出力	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「検算参考資料」のファイル出力ができること。 ファイルには積算システムで入力した内容を反映させること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
	213		施工パッケージ単価表出力	施工パッケージ単価表出力	様式K10「印刷帳票等一覧」に基づく「施工パッケージ単価表」のファイル出力ができること。 ファイルには積算システムで入力した内容を反映させること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	一般利用者	
管理	214	ログイン	ログイン	メッセージ設定	項番17に基づくログイン画面に表示するメッセージを設定出来ること。	必須	システム管理者	
	215	利用者	利用者	団体コード設定	団体名及び団体コード(市町村コード)5桁で追加、修正、削除できること。	必須	システム管理者	コードの採番は、資料1「利用所属一覧表」を参照
	216			所属コード設定	所属名及び所属コード2桁で追加、修正、削除できること。 所属コードは、半角英数が使用できること。 ただし、桁数を増やして対応する場合は数字のみでもよい。	必須	システム管理者	コードの採番は、資料1「利用所属一覧表」を参照
	217			利用者コード設定	利用者名及び利用者コード4桁で追加、修正、削除できること。 利用者コードは、半角数字が使用できること。	必須	システム管理者	
	218			利用者権限設定	資料10「権限設定一覧」に基づく、権限の設定ができること。	必須	システム管理者	
	219		パスワード	入力ルール設定	半角英数記号で8文字以上で設定できること。 英字については大文字小文字も使用できること。	必須	システム管理者	
	220			期限設定	任意に期限を設定できること。 期限は、日付もしくは期間の指定ができること。 期限は、利用者毎に設定できること。	必須	システム管理者	
	221			パスワード変更・再交付	管理者及び利用者に対してパスワードを変更もしくは再交付できること。	必須	システム管理者	
	222				同じ団体内の団体管理者、所属管理者、一般利用者、ゲストのパスワードを変更もしくは再交付できること。	必須	団体管理者	パスワードは団体毎で管理することを予定している。

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
管理	223	利用者	パスワード	パスワード変更・再交付	パスワードは半角数字、半角英字の大文字小文字を任意に組み合わせて8文字以上で自動交付できること。	必須	団体管理者	別途アプリケーションで実現してもよい。
	224		接続時間	タイムアウト時間設定	項番9に基づく、自動的にログアウトされるまでの時間を設定できること。	必須	システム管理者	
	225			タイムアウト警告表示時間設定	項番10に基づく、自動的にログアウトされる旨の警告表示がでる時間を設定できること。	必須	システム管理者	
	226		同時接続数	設定	同時接続数の設定が可能であること。 なお、全体の接続数及び利用する団体毎で上限値が設定できること。	必須	システム管理者	
	227			閲覧	現在の同時接続数を閲覧できること。 閲覧は、全体数及び団体毎でできること。	必須	システム管理者	
	228			ログ保存	現在の同時接続数をログとしてファイル保存できること。	必須	システム管理者	
	229		操作ログ	ログ保存	利用者の操作をログとしてファイル保存できること。 保存する項目は最低限以下の項目とする。 1. 団体コード 2. 所属コード 3. 利用者コード 4. 利用者の操作内容 5. 操作日時	必須	システム管理者	
	230	意見・要望	意見・要望	データ出力	項番53で、サーバに集約された意見・要望データはエクセルファイルにより、表形式で出力できること。 ファイル形式は三重県で導入しているエクセルファイルの最新形式に対応すること。	必須	システム管理者	
	231	基準	入力桁数	入力桁数	数値(金額)の入力可能桁数の設定ができること。 入力可能桁数は協議により決定する。	必須	システム管理者	
	232		内部計算	端数調整設定	資料3「諸経費区分一覧表」の区分毎及び各種コード毎に、計算過程、計算結果等での端数調整の設定ができること。 端数調整は、 1. 小数点以上以下桁数、有効桁数 2. 四捨五入、切り上げ、切り捨て の各種を組み合わせて設定可能であること。	必須	システム管理者	各部局毎の端数調整方法は発注者より提供する。
	233		諸経費等データ	登録	諸経費等データの追加、修正、削除ができること。	必須	システム管理者	諸経費等データとは、諸経費率や各種補正係数等、積算基準書の間接的な経費の算出に必要なデータを指す。
	234			管理	諸経費等データは、コード番号で管理できること。	必須	システム管理者	
	235			利用団体設定	諸経費等データを利用できる団体を設定できること。 選択は、複数選択ができること。	必須	システム管理者	
	236		工種ツリーデータ	登録	工種ツリーデータの追加、修正、削除ができること。	必須	システム管理者	
	237			管理	工種ツリーデータは、工種レベル1から4によるツリーとコード番号で管理できること。	必須	システム管理者	
	238			固定ツリー設定	利用者からツリーの削除や名称変更ができないよう設定できること。	必須	システム管理者	固定工種ツリーを指す。
	239			各種情報付加設定	工種ツリーに対して計算制御を付加できること。 なお、付加した計算制御は、利用者がシステムを使用する際にその設定がわかるように表示すること。	必須	システム管理者	(例)特定の工種ツリーに計上したコードは、直接経費の対象として集計する等。
	240			利用団体設定	工種ツリーデータを利用できる団体を設定できること。 選択は、複数選択ができること。	必須	システム管理者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
管理	241	基準	歩掛データ	登録	歩掛データの追加、修正、削除ができること。	必須	システム管理者	歩掛データとは、積算基準書に準拠した単位当りの機労材等の構成データである。
	242			条件設定	選択条件の追加、修正、削除ができること。 なお、条件は組み合わせの設定ができ、利用者からは設定外の組み合わせが選択出来ないようにすること。	必須	システム管理者	条件の組み合わせにより基準書に基づいた機労材等構成データが選定される。
	243			代表条件設定	予め条件毎に設定しておくことで、帳票の規格欄に条件値を表示できること。	必須	システム管理者	
	244			構成	歩掛データには、各種コードが設定でき、項番242に基づく条件の組み合わせにより、計上される各種コードの組み合わせも変更できること。	必須	システム管理者	(例) ・条件の組み合わせにより、異なる機種の単価コードが計上される。 ・条件で、路面状態を選択するとタイヤ損耗費が計上される。
	245			計算	割返し数量、単位を設定でき単位当たりの金額を自動算出できること。 なお、割返し数量に補正計算がかかる場合においても内部計算により対応できること。	必須	システム管理者	(例) ・100m2当たりの歩掛の場合、1m2当たりの金額が算出される。
	246			管理	ツリーとコード番号で管理できること。	必須	システム管理者	
	247				工種ツリーとのひもづけができること。	必須	システム管理者	
	248				年版(期間)により履歴を持たせた管理ができること。 年版は年度毎に13以上の作成ができること。	必須	システム管理者	
	249			日当たり作業量	積算基準書に記載される、日当たり作業量を設定できること。	必須	システム管理者	
	250			摘要欄設定	摘要欄を設定できること。	必須	システム管理者	
	251			備考欄設定	備考欄を設定し、最大全角200字まで直接入力できること。 なお、記入内容は利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	252			出典情報設定	根拠となる積算基準書名及びページ数等を設定できること。 なお、設定内容は利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	253				根拠となる積算基準書の適用条件等を設定できること。 なお、設定内容は利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	254				項番249で設定した日当たり作業量を、利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	255			金抜き非表示設定	予め定められた記号で囲んだ文字等は金抜き帳票で非表示できること。	必須	システム管理者	
	256				予め単価データに対して設定しておくことで、金抜き帳票の数量を非表示できるようにすること。	必須	システム管理者	(例) 単位に対して非表示となる設定を行うことで、その単位を使用した場合金抜き帳票の数量を非表示とする。
	257			管理費区分設定	資料03「諸経費区分一覧表」に基づく管理費区分を設定できること。	必須	システム管理者	管理費区分の設定により、諸経費等のかかり方を制御できる。
	258			利用団体設定	歩掛データを利用できる団体を設定できること。 設定は、コード毎にでき利用できる団体を複数選択できること。	必須	システム管理者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
管理	259	基準	単価データ	登録	機械損料、機械賃料、労務、材料、市場単価、各種割増し単価、各種補正単価、名称のみ単価等の単価データの追加、修正、削除ができること。	必須	システム管理者	
	260				災害査定用単価の追加、修正、削除ができること。	必須	システム管理者	
	261			管理	単価データは、ツリーとコード番号で管理できること。 また、機械損料や労務、資材等の種類毎にコード番号の頭文字を使い分けし、今後の検索等をしやすい配慮すること。	必須	システム管理者	
	262				年版(期間)により履歴を持たせた管理ができること。 年版は年度毎に13以上の作成ができること。	必須	システム管理者	
	263			備考欄設定	備考欄を設定し、全角最大200文字まで記入できること。 なお、記入内容は利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	264			出典情報設定	根拠となる積算基準書名及びページ数等を設定できること。 なお、設定内容は利用者から設計書作成時に閲覧できること。	任意	システム管理者	
	265			金抜き非表示設定	予め定められた記号で囲む等により、文字等を金抜き帳票で非表示できること。	必須	システム管理者	
	266				予め単価データに対して設定しておくことで、金抜き帳票に数量を非表示できるようにすること。	必須	システム管理者	
	267			管理費区分設定	資料03「諸経費区分一覧表」に基づく管理費区分を設定できること。	必須	システム管理者	
	268			資源区分設定	資料03「諸経費区分一覧表」に基づく資源区分を設定できること。	必須	システム管理者	
	269			利用団体設定	単価データを利用できる団体を設定できること。 設定は、コード毎にでき利用できる団体を複数選択できること。	必須	システム管理者	
	270	特殊データ	諸雑費コード登録	登録	積算基準書に基づく諸雑費をコード登録できること。 諸雑費率を初期設定できること。	必須	システム管理者	諸雑費の一例として、金額を丸めるための端数処理または、機労材費に特定の率を乗じて算出する雑材料費がある。
	271			集計処理コード登録	積算基準(調査・測量編)に基づく変化率の積算を行うためのコードを登録できること。 積算は、計算式に直接入力、歩掛コードの条件からの変化率の引用によりできること。	必須	システム管理者	
	272			管理	コード番号で管理できること。	必須	システム管理者	
	273				年版(期間)により履歴を持たせた管理ができること。	必須	システム管理者	
	274			金抜き非表示設定	予め定められた記号で囲んだ文字等は金抜き帳票で非表示できること。	必須	システム管理者	
	275			利用団体設定	特殊データを利用できる団体を設定できること。 選択は、複数選択ができること。	必須	システム管理者	
	276	添付データ	添付データ	ファイル掲載	メニュー画面及び積算画面において、ファイルを掲載し利用者から閲覧または業務用端末に保存できること。	必須	システム管理者	
	277				利用者権限毎に、表示されるファイルの設定が可能であること。	任意	システム管理者	

■現行積算システム機能一覧表

※必須項目については、現行システムにおいて実現させています。

※任意項目については、現行システムにおいて可能な限り実現させています。

※機能要件については、発注者との協議により、中項目単位での項目変更(移動)を可能とする。

※各機能は、記載している利用権限を含め上位に位置する利用権限において使用可能であること。

別紙 8

機能区分	項番	大項目	中項目	小項目	機能要件	実現	利用権限	備考
データ抽出	278	データ抽出	データ抽出	データ抽出	データベースに保存されているデータを、各種条件を組み合わせでデータ抽出し、csvファイル等で保存できること。 抽出には最低限以下をキーとして使用できること。 1. 年度 2. 団体 3. 所属 4. 利用者 5. 各種コード番号 6. 変更回数 7. 保護設定有無 8. 名称 9. 設計書区分 10. 諸経費区分 11. 工種区分 12. 管理費区分 13. 資源区分	必須	システム管理者	